

2023年9月3日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒285番 (SK 姉)

『心の緒琴に』

聖書⇒詩編 18:2~3 節 (KH 姉)

『この仮の宿にあって／あなたの掟をわたしの歌とします。』(新共同訳)

『あなたの定めはわが旅の家で、／わたしの歌となりました。』(口語訳)

礼拝讃美歌⇒141番 (旧 206 番)

『千歳の岩よ』

聖書⇒ヤコブの手紙 1:19~22、27 節 (SK 兄)

『わたしの愛する兄弟たち、よくわきまえていなさい。だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。人の怒りは神の義を実現しないからです。だから、あらゆる汚れやあふれるほどの悪を素直に捨て去り、心に植え付けられた御言葉を受け入れなさい。この御言葉は、あなたがたの魂を救うことができます。』

みなしごや、やもめが困っているときに世話をし、世の汚れに染まらないように自分を守ること、これこそ父である神の御前に清く汚れのない信心です。』

(祈)

聖書⇒マタイによる福音書 12:19~20 節 (ES 姉)

『彼は争わず、叫ばず、／その声を聞く者は大通りにはいない。

正義を勝利に導くまで、／彼は傷ついた葦を折らず、／くすぶる灯心を消さない。』

聖書⇒マタイによる福音書 8:16~17 節

『夕方になると、人々は悪霊に取りつかれた者を大勢連れて来た。イエスは言葉で悪霊を追い出し、病人を皆

いやされた。それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。「彼はわたしたちの患いを負い、／わたしたちの病を担った。』

(祈)

礼拝讃美歌⇒38番 (旧 23番) (KH 兄)

『世々に誉むべし』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 13:7 節 (KH 兄)

『(神の愛は) すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11:23~26 節

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒142番 (旧 58番)

『渡されたもう』

《建徳》

聖書⇒ヘブライ人への手紙 9:15~22 節 (KH 兄)

『こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者なのです。それは、最初の契約の下で犯された罪の贖いとして、キリストが死んでくださったので、召された者たちが、既に約束されている永遠の財産を受け継ぐため

にほかなりません。遺言の場合には、遺言者が死んだという証明が必要です。遺言は人が死んで初めて有効になるのであって、遺言者が生きている間は効力がありません。だから、最初の契約もまた、血が流されずに成立したわけではありません。というのは、モーセが律法に従ってすべての掟を民全体に告げたとき、水や緋色の羊毛やヒソブと共に若い雄牛と雄山羊の血を取って、契約の書自体と民全体とに振りかけ、「これは、神があなたがたに対して定められた契約の血である」と言ったからです。また彼は、幕屋と礼拝のために用いるあらゆる器具にも同様に血を振りかけました。こうして、ほとんどすべてのものが、律法に従って血で清められており、血を流すことなしには罪の赦しはありえないのです。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 17:2~3 節 (ES 姉)

『あなたは子にすべての人を支配する権能をお与えになりました。そのために、子はあなたからゆだねられた人すべてに、永遠の命を与えることができます。永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 14:6~7 節

『イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知ることになる。今から、あなたがたは父を知る。いや、既に父を見ている。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 14:9~11 節

『イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっているのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 20:31 節

『これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。』

礼拝讃美歌⇒48 番 (旧 244 番) (KH 兄)

『常磐の御栄え』

《建德要旨》